

多様な人材を活用した授業改善の取組と学びの促進

保健体育・日野克博

1. 授業の概要とねらい

「部活動指導実践論」は、大学が独自に設定する科目として位置付けている。この授業では、部活動の意義や役割を理解するとともに、部活動を取り巻く諸課題の改善方策について自己の考えを持ち、よりよい部活動の運営や指導に活用できる実践的指導力を見に付けることを目的にしている。

2. 授業の内容（スケジュール）

本授業は3年生の後期に開講している。今年度は50名が受講した。最初の共通部分は全体で実施するが、その後、運動系と音楽系を学生が選択して受講する。今年度は、42名が運動系を、8名が音楽系を選択した。

以下、運動系について報告する。

表1は、運動系の内容を示している。この授業は、保健体育教員がオムニバスで担当している。

（第2回：糸岡，第3回：石井，第11回：福田，第12回：田中，第13回：上田，それ以外，日野）

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、第11回目以降は遠隔授業（*）で実施した。

表1. 「部活動指導実践論」（運動系）の内容

第1回	事前課題（教育実習Bと日程重なり）
第2回	ガイダンス，部活動の意義と役割
第3回	部活動の歴史
第4回	部活動指導・救急処置（ゲストティーチャー）
第5回	外部指導者の活用（ゲストティーチャー）
第6回	部活動指導の現場（ゲストティーチャー）
第7回	部活動見学・講話（附属中）
第8回	部活動見学・講話（附属中）
第9回	部活動見学・講話（附属中）
第10回	部活動見学の省察
第11回	部活動運営と指導者のあり方（*）
第12回	部活動と地域スポーツ（*）
第13回	部活動と生徒の健康・安全への配慮（*）
第14回	部活動のこれから（課題と展望）（*）
第15回	まとめ（*）

3. 授業の展開と工夫

1) ゲストティーチャーの活用

スポーツ庁は、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革を推進しており、学校現場の実情やコロナ禍における部活動指導の実態について、より最新の情報やリアリティのある情報を学生に提供するため、ゲストティーチャーを招聘した。

第4回：高橋敏明氏（社会共創学部）

スポーツ医学の立場から、生徒の発育・発達やケガの防止、応急手当等について専門的な立場から講話して頂いた。

第5回：富岡明氏（松山市教育委員会）

行政の立場から、部活動の外部指導者の実態やコロナ禍における部活動指導の配慮事項などについて講話して頂いた。

第6回：松本亜由美氏（松山市教育委員会）

部活指導者の立場から、これまでの部活動指導の経験や生徒とのかかわり、部活動マネジメントについて講話して頂いた。

2) 部活動見学・講話

部活動に取り組む生徒の様子や部活動指導の実情を把握するために、附属中学校での部活動を見学する機会を設定した。この授業を5限帯に実施しているのは、授業内に部活動見学を実施できるようにしている意図もある。今回、コロナ禍ではあったが、感染対策を徹底した上で、附属中学校での見学を実行した。学生は、附属中学校に集合したあと、自由に部活動を参観した。

あわせて、見学終了後、附属中学校教諭より、部活動運営の実態や部活動の顧問になった際の留意すべき点、見学しての質疑応答などを行った。

今年度は、附属中学校の坪内道広教諭と三棟優子教諭に依頼し、担当して頂いた。

3) 部活動改革の動向, 新しい部活動の紹介

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の内容や令和5年度以降に段階的に進められる部活動の地域移行について取り上げるとともに, 学生のディスカッションなどを通じて, 効果と課題を考えさせた。また, 「ゆる部活」や「スポーツ・レクリエーション部」など, 変革期を向かえた部活動の新たな取組を動画等を通じて紹介した。

4. 授業のふりかえりと学生の評価

まとめの授業(15回目)では, 本授業の振り返りをオンラインで行った。今回の実践を振り返って, 学びになったこと(心に残ったこと)をあげてもらった(自由記述)。その一部を紹介する。

- ・知識伝達型の講義調の授業ではなくて, 経験に裏打ちされていて先生ご自身の言葉で飾ることなくお話されたからよかったです。そのような話をする際の言葉には熱や力がこもっていて, それが皆にしっかりと届いたと思います。
- ・部活動指導の計画の大切さである。自分自身が部活動を行っていたときには何も考えていなかったが, 部活動をすることで身体への影響がある。過度な練習や負荷の多い練習ばかりしてしまっただけでは子どもたちの身体に悪影響を及ぼす恐れもある。
- ・授業全体を振り返って, 「地域部活動の移行」と「部活動改革」が印象に残っている。部活動が抱える課題として, 活動時間の増加に伴う教職員の長時間勤務があることから, 休日の部活動の段階的な地域移行が進められている。
- ・運動部活動を指導する上での知識がまだまだ不足していると感じた。経験した部活動とは, 異なる部分が多くあるということ学んだため, 時代に合わせた指導法や今までの良かった指導法について勉強し, 子どもたちが何を求めているのか, 何を学ばせたいのかなどについて考えていきたいと思う。
- ・今年度の授業では, コロナの影響もあり対面の授業が少なかったため, 部活動だよりのようなものを作成する活動もしてみたかった。
- ・来年度はコロナがもっと落ち着き, 時間数的にも可能であれば部活動を見る機会があればさらに良い学びになるのではないかと考える。
- ・見ているだけでは, わからない指導の工夫があると思うので, 顧問の先生方が, 作られている部活動の経営方針が書かれている者などがあればもっと意味のある部活動見学になると思いました。

5. 授業の成果と今後の課題

本授業は, 従来1年生に開講していた授業であったが, 今年度より3年生を対象に変更した。その理由の一つが, 3年生の教育実習で教科指導や生活指導を学習した後, 学びの継続性をもちながら部活動指導の学びに取り組みさせることができると考えたからである。もう一つが, この授業を5限帯に実施することで, 中学校の部活動の時間帯と重なり, 直接部活動の様子を見学したり, 参画できると考えたからである。

今年度は, コロナ禍の影響が続いていたこともあり, 部活動見学は実施できたものの十分な距離を取った活動や生徒との直接的な指導の経験を取ることはできなかった。また, 後半は遠隔授業が中心となり, 学生の交流やアクティブ・ラーニングの実施については制限が強いられた。ただ, ゲストティーチャーを活用して, より実践的, 現実的な課題や内容を取り上げて, できるだけ学校現場のリアリティのある最新の情報提供に努めた。

その結果, 受講した学生からは, 肯定的な評価が多くみられた。特に, 部活動の地域移行など, 自分たちが受けてきた部活動との違いや, 新たな部活動の方向性など, 今後の展望を知ることができたこと, また, 生徒の立場からはみえてこなかった顧問の具体的な業務などが学びになったという意見が多くみられた。

今年度の授業の成果や課題を踏まえながら, 次年度についても, 以下の点について工夫・改善を図っていきたい。

1) リアリティのある情報を提供する

本授業では, 部活動指導の具体的なイメージをもってもらうために, ゲストティーチャーの講話や部活動見学を授業内容に組み込んでいる。次年度も, 積極的に活用し, よりリアリティのある学びの機会を提供していきたい。

2) 「やってみる」場を提供する

今年度の授業では実施できなかったが, 指導理念や指導計画を実際に立案し, 部活動通信の作成など「やってみる」体験を通して, 学びの質を高めようになりたい。また, 部活動指導におけるICTの活用についても, 積極的に内容に組み込んでいきたい。

3) 「主体的・対話的で深い学び」を提供する

受講生が主体的に授業に取り組めるように, 各自やグループで部活動指導に関するテーマをもって, 課題解決や探究活動を進めようという内容についても検討したい。